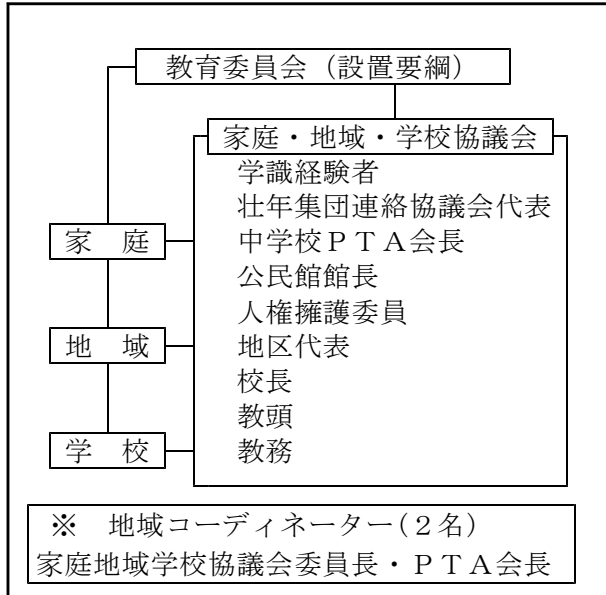


1 「家庭・地域・学校協議会」の設置と運営

(1)「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2)協議会の開催内容

- ・第1回 6月7日(金)
スクールプランや学校要覧、年間行事計画等をもとに、今年度の学校運営方針等について協議する。
「地域と進める体験推進事業」について、説明と協力を依頼する。
- ・第2回 9月7日(土) 8日(日)
体育祭や文化祭における生徒の様子や学校施設の状況を視察する。
- ・第3回 2月27日(木)
学校評価の集計結果報告と次年度に向けての取り組みについて協議する。
- ・通年
学校開放日には、生徒の視察を行う。

(3)協議会における成果と課題

協議会委員の方々の日々積極的な参加のお蔭で、学校の活動も生徒の様子もよく理解いただき適切に指導ご助言をいただいている。委員の方々も長い方は10年近くになる。本校は地域外の職員がほとんどのため、今後委員の交代となった時の人材発掘がなかなか難しい。担い手を探すことが、今後の課題と考える。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

上志比地区には、吉峰寺をはじめとする史跡や名勝が数多く存在する。中部縦貫自動車道の建設によりその歴史あるものが埋もれてしまう可能性があるため、平成14年度に「ふるさと探求」という冊子が発刊された。発刊より15年余、その冊子が手元にある家庭も少なくなり、地区に残る史跡や名勝についての興味・関心も薄れ、中学生に限れば、身近にあるその存在すら知らない。この事業を通して、地元「上志比」の歴史や文化について理解を進めるとともに、ひいては「ふるさと上志比」を愛する生徒を育てたい。

(2) 活動の実際

①吉峰寺へ奉仕活動と座禅体験(6月4日)

生徒から、校区にある吉峰寺へ奉仕活動に行こうと話が上がった。校区に寺があることは知っていたが、どのような歴史があるのかは知らない生徒がほとんどであった。そこで、修行僧の方より説明を受け、その後、座禅体験や清掃活動を行った。「道元禅師が永平寺に入る前に吉峰寺にいたのだ!ということが分かった。」と、生徒は興味津々に話を聞いていた。地区にはまだまだ知っていそうで知らないところがたくさんあるから、これからそれらをもう少し調べようと活動が広がっていった。



②史跡巡り（事前学習10月23日・史跡巡り11月20日）

事前学習として、永平寺町内には松岡古墳群をはじめ、大本山永平寺や吉峰寺等、全国的にも名の知れた歴史的遺産のあることを学んだ。旧上志比村の成り立ちや史跡についていろいろ話を聞いているうちに、中部縦貫自動車道の建設によりその歴史あるものが埋もれてしまう可能性があるということを知り、生徒からは驚きの声が上がった。

昨年作った冊子を見て、自分の地域に知らない歴史がいろいろあることを知った。それとともに、次回探検に行くコースについて、「わが家の近くだ！」という生徒はその場所にある立て看板について、知っていることをいろいろ話してくれて、生徒たちは大変興味を持つことができた。

その後、史跡巡りを行った。当日は、地域の語り部の2人が生徒全員と行動を共にして、あちこち見たり聞いたりした。



③資料集づくり（12月）

自分たちの町の遺跡がなくなってしまうかもしれないことを知り、昨年同様歴史巡りをしたことをまとめ発表した内容をデータ化して残すことにした。生徒たちの見てきたものの写真と、現在ある冊子の内容を分かりやすく読み替えて右のようにデータ化した。

（3） 地域コーディネーターについて

①地域コーディネーター 2名

- ・家庭地域学校協議会委員長 多田省吾さん

②地域コーディネーターの活動概要

計画の段階から、地域の語り部の多田美千子さんと鈴木真人さんに参加をいただき学校と地域を繋ぐ役割をしていただいた。

（4）特に工夫した事項

- ・歴史を聞くだけにならないよう、体験活動を組み込んだ内容にした。
- ・地域の語り部の役割をはっきりさせ、それぞれの知見から話をしてもらえるように、史跡めぐりコースを考えた。

栗住波の清水 しょうづ

1. 使い方
清水は、生活や田んぼなどに使われています。清水はとても冷たくておいしい水です。だから、冷蔵庫代わりに飲み水、野菜を洗う時にも使われていました。
また、3段階に使っていて、1段階にはきれいなもの、2段階には泥、3段階にはおしめ、と分けていました。
清水を使った後にはお礼として、不動明王に清水の水をかけたそうです。清水を使っていた人は、夏は水が冷たく感じ、冬は水が少し暖かく感じたそうです。昔は水道がなかったので、清水はとても大切で昔の人は決まりを守って使っていたそうです。



2. 歴史
栗住波の清水は、今は坂を下りた所にありますが、昔は不動明王の近くにあったそうです。山陰に多く、栗住波の他にも、藤巻や、大月にもあります。昔は、山の奥にあるので、清水ではなく、山の水を使うそうです。
また、昔は、清水がとても大事なもので、毎日住民が交代で掃除をしていたそうです。
ちなみに、「しょうづ」という読み方は、北陸地方だけの読み方で、標準語で言うところ、「いずみ」や、「しみず」と言うそうです。
私は、今回の話を聞いて、この清水は、そんなに歴史があるもので、人々の生活に欠かせないものだったのだと驚きました。また、清水は都会には絶対ない、田舎だけの貴重な資源だということが分かりました。これからも、清水のきれいな状態を保っていけるように頑張っていきたいです。



3 成果と課題

大変興味をもって取り組むことができた。この活動を通して、地域の歴史と発展していく今を知ることができた。この活動は3年間、毎年1年生が取り組み今年で2年目となる。上志比地区を3つに分けて毎年1エリアずつ探求するため、活動をした1年生はそのエリアのことしかわからない。地域のことを十分に分かってもらいたいと考え、時間の確保が問題となる。年度初めに十分な時間配分を考え計画的に取り組み、来年度には一つの記録集ができあがるようにしたい。

